

組踊

組踊研修のご案内



国立劇場おきなわ組踊研修



組踊実技「立方」



組踊実技「歌三線」

公益財団法人国立劇場おきなわ運営財団では、組踊の伝承者を養成するための研修（組踊研修）を、伝統組踊保存会の協力を得て平成17(2005)年から実施しています。研修は、「組踊」の保存継承を図ると共に、将来にわたり興行的かつ定期的な組踊の公演を行いうる、優れた実演家の育成を目的としています。講師には人間国宝をはじめとする各分野の第一人者があたり、実践的なカリキュラムのもとに直接指導を行なっています。



組踊研修の概要

組踊研修の研修期間は3年間で、各専攻ごとに組踊の代表的な6演目（朝薫の5番と花売の縁）の習得を目指します。この組踊実技研修のほか、技芸の幅を広げるため、舞踊や各自の専攻とは異なる楽器について学ぶ副実技研修や、組踊の演者として必要な発声方法や身体作り、作法等について知るための基礎実技研修も実施しています。また、これら実技の他にも、組踊の伝承者として相応しい知識と素養を身に付けるため、琉球芸能史や琉球方言等に関する講義、歌舞伎等の鑑賞を実施しています。

組踊研修の概要は次のとおりです。

- ・ 研修期間 3年間
- ・ 研修時間 月曜日から木曜日の午後6時30分から午後9時45分
- ・ 研修場所 国立劇場おきなわ 養成研修室ほか
- ・ 受講料 無料
※研修生は、伝統芸能奨励費貸与制度が活用できます。



副実技「琉球舞踊」



副実技「箏」



副実技「太鼓」



基礎実技「発声訓練」



基礎実技「舞台扮装」



基礎実技「身体訓練」



講義「詞章研究」



東京研修



研修生発表会「本番前」

「組踊(くみおどり)」とは



組踊は、唱え（セリフ）、音楽、舞踊で構成される沖縄独特の歌舞劇（演劇）です。中国から琉球王国の新しい国王を任命するためにやってくる中国皇帝の使者「冊封使」を歓待するため、創作され上演されました。

組踊の創始者は玉城朝薫（1684～1734年）です。朝薫は沖縄土着の芸能や故事を基礎に、本土の芸能（能、狂言、歌舞伎等）、さらに中国の演劇にも影響を受けて組踊を創作したと考えられています。

組踊は、1719年 尚敬王の冊封式典の後に行われた宴で初めて上演され好評を得ました。その後、1800年代には地方でも上演されるようになり、庶民の間にも広がっていきました。

昭和 47(1972) 年、沖縄が日本に復帰すると同時に、組踊は我が国の優れた芸能のひとつとして能楽、歌舞伎、文楽などと同様に国の重要無形文化財として指定されています。さらに、平成 22 (2010) 年にはユネスコの無形文化遺産条約に基づき、「人類の無形文化遺産の代表的な一覧表」へ記載されました。沖縄のみならず日本を代表する芸能として、今後の保存・振興・継承が求められています。



(※上記 6 点の写真は「組踊研修生発表会の様子」です。)

組踊の伝承者を養成する必要性

組踊は、冊封使の歓待のために演じられるなど琉球王府との深い関わりで成立し、発展してきました。そのため、明治 12(1879) 年の廃藩置県で琉球王国が崩壊すると、組踊を上演する母体がなくなり、伝承の危機に陥りました。しかし、王府時代から地方でも上演されていたことと、明治・大正・沖縄戦までは、琉球王府で御冠船踊の担い手であった旧士族たちによって、商業演劇の演目として上演されることで存続してきました。

しかし、沖縄戦後は、社会的な変化や人々の価値観の多様化等により、組踊は商業演劇として存続していくことが困難となってきました。その後、組踊は昭和 47 (1972) 年の沖縄の日本復帰とともに、国の重要無形文化財に指定され、組踊の伝承者の養成が図られていますが、組踊の後継者の高齢化が進み、若手伝承者の育成が急務となっています。



三期生集合写真



研修カリキュラム

組踊研修では、次のような研修科目が開設されています。

- ①組踊実技 「執心鐘入」、「二童敵討」、「銘苅子」、「孝行の巻」、「女物狂」、「花売の縁」
- ②副実技 琉球舞踊、歌三線、箏、笛、胡弓、太鼓
- ③基礎実技 発声訓練、身体訓練、作法、舞台扮装
- ④講義 琉球方言基礎、詞章研究、琉球音楽論、演劇舞踊論、琉球芸能史、日本芸能史等
- ⑤実習ほか 研修発表会、公演鑑賞、組踊史跡見学、歌舞伎等鑑賞ほか

3カ年間の研修基本パターン

(研修の進行状況等により、実際の研修とは若干異なる場合がございます)

		各専攻別				共通		
		組踊実技		副実技		基礎実技	講義	実習
		立方	地方	立方	地方			
1年目	前期	組踊「執心鐘入」		琉球舞踊	「三線、箏、笛、胡弓、太鼓」のいずれかを選択 ※自分の専攻以外の楽器を選択	作 発 法 声 舞 訓 台 身 扮 体 装 練	琉球方言基礎 演劇舞踊論 詞章研究 日本芸能史 琉球音楽論	研修発表会 歌舞伎等鑑賞 公演鑑賞 組踊史跡見学
	後期	組踊「二童敵討」						
2年目	前期	組踊「銘苅子」		琉球舞踊	「三線、箏、笛、胡弓、太鼓」のいずれかを選択 ※自分の専攻以外の楽器を選択 ※1年目選択楽器を除く			
	後期	組踊「孝行の巻」						
3年目	前期	組踊「女物狂」		「琉球舞踊、三線、箏、笛、胡弓、太鼓」のいずれか一つを選択 ※琉球舞踊は地方研修生のみ選択可 ※1・2年目選択楽器を除く				
	後期	組踊「花売の縁」						

1週間の研修基本パターン

(講師等との日程調整等により、実際の研修とは若干異なる場合がございます)

	時間	月	火	水	木
1時限目	18:30 } 20:00	組踊実技	基礎実技 or 講義	副実技	組踊実技
2時限目	20:15 } 21:45	組踊実技	基礎実技 or 講義	基礎実技 or 講義	組踊実技



国立劇場おきなわ

National Theatre Okinawa

お問い合わせ／公益財団法人国立劇場おきなわ 調査養成課養成係
〒901-2122 沖縄県浦添市勢理客 4-14-1 TEL.098-871-3318
(平日午前10時～午後6時まで)

